会報
兵小長
第　151　号
令和元年12月13日
兵庫県
小学校長会

令和元年度対県要望書作成と交渉の過程

事務局長　宮本　晃郎

兵小長の重要な責務は、県教委との連携にある。学校の教育活動が、より豊かになるかどうかは、県の教育施策が大きな鍵を握っている。本年度も、よりよい「兵庫の教育」の実現を目指して、各地区・各支部の意見を集約・整理してきた。さらに、全連小や文部科学省の動向も踏まえ、要望内容の重点化を図って、県教委に提案を行い、協議に臨んだ。

【要望書の作成・要望活動の経過】

◇四月　各支部に意見集約依頼等
◇五月　各委員会で要望事項の協議
　　要望書作成委員会準備会
◇六月　要望書作成委員会で原案
　　理事・地区長会で検討・協議
◇七月　要望書作成委員会での修正
◇八月　要望書説明会の準備会
　　県教委への要望書説明会
・校長会は前川会長以下十一名
・県教委は和泉教育次長以下十六名
◇十月　要望書回答懇談会
・校長会は会長以下三十一名
・県教委は義務教育課長以下、各課の代表者を含む十六名

【要望事項と県教委回答】

1　教育委員会と校長会の連携強化

●教育諸施策の校長会との事前協議
◎学校現場への影響が大きい新規事業や大幅な制度変更は、必要に応じて校長会との連携を密にして円滑な推進を図っていきたい。

2　人材の確保と育成の強化

●職責に見合った給与や手当等
◎行革による「給料月額及び期末勤勉手当」削減は平成三十年度末解消となったが、「管理職手当」は一割減額のまま。今後も「行財政運営方針」に基づき取り組んでいきたい。また、学校の規模や課題に応じて管理職手当の支給額を引き上げるように改善を図っている。具体的には小学校で十九学級以上の大規模校、その他の市町の中でも特に教職員定数の加配事由の多い課題校には、校長・教頭ともに月額一万円を引き上げた。加えて、教頭はその他の全ての学校で千円引き上げた。
◎県内全市町にスクール・サポート・スタッフをモデル的に一名配置。
◎多忙な教頭の勤務実態が改善されるように努力する。
◎実績のある臨時講師の確保に向けて採用制度でも改善を図る。
◎主幹教諭としての資質向上を目指した研修の充実を図る。

3　実効性のある「学校における働き方改革」の推進

●教員の負担軽減のための人的措置
●業務改善につながる環境改善等
◎外国語の専科教員については、国に対して加配の増員と要件の弾力化を要望していきたい。
◎専任教務主任化は厳しい財政事情により困難。専任特別支援コーディネーターの配置は想定されていない。養護教諭や栄養教諭の配置充実を国に引き続き要望していく。
◎子ども多文化共生サポーターは、本年度から緊急派遣の開始から一か月未満は派遣回数を週四回にするなどの支援を充実。一年以内は県費派遣とし、それ以降は市町費に移行。
◎特別支援学級多数設置校加配と特別支援学級多人数加配を一つの加配に統合して配置。
◎市町教育委員会への報告書類の削減や学校給食費の公会計化等の取組を一層促しているところであり、学校の負担軽減を図る取組を市町教委との協議を進めていただきたい。

4　信頼関係に基づく円滑な学校運営に資する改善

●提言シートの即時廃止
●人事評価のあり方の検討
◎提言シートは、学校運営上の成果と課題をとらえる機会と考えている。本来的に建設的な提言を行うものであり、学校運営の支援に活用するものとして理解いただきたい。
◎今後、法改正や制度変更の場合には学校現場に適したものになるように十分検討し、校長会とも事前協議をさせていただきたい。

5　きめ細かな教育活動の推進
6　教育課程の推進に伴う施策の充実
7　安全・安心な教育環境の整備充実
8　へき地教育の一層の振興

◎国の動きを注視しながら検討するとともに、必要に応じて市町組合教育委員会に働きかけるといった回答が多い。その一方で、学校現場の実情に照らして弾力的運用も認めることもしている。例えば、兵庫型教科担任制のうち少人数授業では、高学年に加え、学校の実情に応じ、高学年の指導時数を上回らない範囲で他学年での実施も可能としている。非常勤講師の校外学習の引率においても学校長判断により従事を可能とする弾力化も図っている。また、英語の専科指導の単独授業を認めている。
◎本年度二十五人増の過去最高となる百五十一人の学校生活支援教員を配置することができた。

【総括と次年度に向けての構想】

・兵小長としては、現場の切実な声を今後も継続して要望することが成果につながると確信している。
・マンパワーの課題克服と各市町での先進的取組の全県拡張に努めたい。

（神戸市立湊小学校長）

令和元年度 兵小長研究大会を終えて

経営委員長　松田慶次

令和元年度の兵庫県小学校長会研究大会は、十月九日に但馬大会が豊岡市立市民会館を全体会会場として、十月二十三日には洲本市文化体育館を全体会会場として、多くの校長先生方に参加いただき、盛大に開催することができました。企画・立案から用意周到な準備とおもてなしの心で円滑な大会運営にご尽力いただきました但馬地区・淡路地区の両実行委員会の皆さまのお陰でありますとともに、本大会をご指導いただきました兵庫県教育委員会並びに但馬教育事務所・淡路教育事務所管内の市町教育委員会の皆さまに深く感謝申し上げる次第です。

今回の研究大会の大会主題は「〝ふるさと・絆・支え合い〟夢をもち未来を拓くたくましい子どもの育成」としております。この大会主題には、国内外の厳しい社会情勢の中で子どもたちが自分のふるさとと繋がり、そして、新しいふるさとを基盤に、人と人との絆を大切にしながら生きる喜びと夢をもち、ともに支え合い、個性豊かな社会を築く、たくましい子どもを育てるという思いが込められています。

全体会では兵小長の前川義弘会長から次のような挨拶がありました。

「新学習指導要領全面実施が迫ってくる中、各学校では『社会に開かれた教育課程』の理念のもと主体的・対話的で深い学びを視点とする授業改善や理念を具現化する取組が求められます。四月には文部科学大臣が『新しい時代初等中等教育の在り方について』を中央教育審議会に諮問を行いました。これからの時代を予見した新しい教育活動の創造を意識して取り組むことも必要となってきます。

また、『学校における働き方改革』も喫緊の大きな課題です。子どもたちの笑顔あふれる学校づくりには、教職員が心身とも健康でゆとりをもって子どもと向き合うことが必要であり、これまで以上に対県要望の大きな柱として取り組んでまいります。

『兵庫は一つ』と申してきましたが、今、『兵庫は広い』と感じています。分科会では、広いが故に多様で特色ある各地域の取組の交流により、山積する課題解決に向けた多様な方策や様々な経験が、小学校教育の更なる充実と発展につながることを期待します。」と締めくくられました。

その後、両大会とも実行委員長の挨拶、開催地の市長様や当番地区の教育事務所長様などからご祝辞をいただきました。その中では、今回の研究大会の開催地である豊岡市や洲本市の歴史や教育についての現状を丁寧にお話しいただきました。

全体会に引き続く記念講演において但馬大会では「温故知新」～東井義雄の言葉に学ぶ～と題して、東井義雄記念館館長　東井裕子氏による講演をいただきました。「因果の道理」や「一度きりの　尊い道を　今　歩いている」など東井義雄先生が残された言葉をご紹介いただきながら、人との接し方、物事の捉え方や生き方についての教えをいただきました。

淡路大会では「プログラミング教育の進め方」と題して、放送大学教授中川一史氏による講演をいただきました。プログラミング教育の先進校の実践を紹介いただきながら、カリキュラムマネジメントが大切になることやソフトやハード面の環境整備も必要となることをお話しいただきました。まずは、先生方が楽しんで取り組むことが一番であると締めくくられました。

これからの学校教育は、校長のリーダーシップに加え、多様な課題にしなやかに対応することが求められていることを感じました。

【分科会での研究討議】

両会場とも午後から八分科会で研究討議を行いました。

1学校経営［校長の職務、組織・運営］
2教育課程［豊かな心、確かな学力］
3現職教育［教職員の資質・能力向上］
4生徒指導［豊かな人間関係］
5人権教育［人権尊重・共に生きる心］
6健康教育・食育
［たくましい心身・健全な食生活］
7特別支援教育
［一人一人の教育的ニーズに対応］
8教育課題［防災教育・外国語教育］

各分科会では、二本の提案レポートを柱にして、六名程度の小グループによる参加型の分科会形式で実践交流や情報交換を行いました。それぞれの分科会においては研究課題について熱心な討議がなされ、これからの学校経営の更なる充実につながる有意義な研究大会となりました。

この研究大会で話し合われたことが新たな兵庫の教育を推進する活力になるものと確信しております。

なお、令和二年度の兵小長研究大会は、東地区は十月十四日に神戸市にて、西地区は十月二十一日赤穂市にて開催いたします。

（猪名川町立楊津小学校長）

全連小秋田大会に参加して

副会長 久後幸喜

第七十一回全国連合小学校長会研究協議会秋田大会が、十月十七日（木）、十八日（金）の二日間、秋田市の秋田県立武道館で、全国から二三〇〇名あまりの校長が参加して開催されました。

令和になって初めて行われた秋田大会は、二〇二〇年度の新学習指導要領全面実施移行期最終年度であり、平成二十五年度三重大会から受け継がれてきた全国連合小学校長会の研究主題「新たな知を拓き 人間性豊かな社会を築く 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」のまとめの大会でもありました。挨拶の中で、全国連合小学校会喜名会長は、「これまでのまとめとしての研究と、新たな研究主題につなぐための実りある大会とし、我々校長の専門性向上のための学びの場としての機能を果しましょう。」また、「学習指導要領の改訂の理念に基づき、目の前の子どもたちに必要な資質・能力を身に付けていくという使命を果たさなければなりません。子どもたちが変化をつくり、未来を拓くために必要な力を身に付けるためには、児童のために最適化された授業（授業改善）や学校の働き方改革を踏まえた質の高い教育活動を実現するための（地域間やＩＣＴ環境等の）教育環境の整備が必要です。」と述べられました。

秋田大会は、副主題を「ふるさとを愛し志をもって自ら新しい社会を切り拓く子どもを育てる学校経営の推進」と設定し、学校経営の責任者である校長の果たすべき役割と指導性を究明してきました。また、秋田県・秋田市小学校長会の運営は、先人から受け継がれてきた知恵と工夫と挑戦の精神を生かした緻密で心温まるものでした。

第一日目は、全体会の後、十三分科会に分かれて、研究協議が行われました。「可視化しながら、考えを広げ、深めるための思考ツール」を取り入れ、活発な協議が行われました。二日目は、全体会を行いました。まず、研究協議のまとめの報告と大会宣言文の採択がありました。その後、「自ら新しい社会を切り拓いていく子どもたちへ～ふるさと 志 未来創造～」をテーマにシンポジウムが開かれました。秋田県にゆかりのある三名のシンポジストからは、これからの教育実践の参考になる示唆に富んだお話を聞くことができました。

最後に、来年度開催地の京都府小学校長会から、決意と歓迎の熱意あふれる閉会の挨拶で、充実した大会の全日程を閉じました。

（三田市立小野小学校長）

地区の動き

阪神地区だより

阪神地区長 後藤武昭

阪神地区小学校長会は、阪神間の八支部、一七九校で構成されており、学校規模も風土も異なるそれぞれの地域ではありますが、意見交流を続けながら活発な活動を継続しております。

ご存知の通り、神戸市への権限移譲に伴い、兵小長組織の見直しや活動のあり方についての協議が進められていますが、県下では最大の規模である私たち阪神地区の担う役割はとても大きいと感じています。今年の兵小長の総会は、阪神地区尼崎市で開催となり、開催地区として運営に当たりました。兵小研の各部会の運営に際しても、阪神地区校長の担うべき役割が増大しております。数年前より要望書作成委員も阪神地区が担当しております。これまで、神戸市の校長先生方にお願いしておりました様々な業務を、兵庫県全体で担っていく大切な節目であることを痛感しております。

さらに、少しずつではありますが阪小長の活動も見直しを進めております。昨年度に続いて役員会の回数を減らしたり、旧交会を休止したりして、負担軽減を図っております。今後、さらに兵小長、兵小研の活動見直しに伴って、更なる改革が必要であると思われます。

「阪神は一つ」を合言葉に様々な課題等の解決と更なる活動の充実を図っていきたいと考えています。

（芦屋市立精道小学校長）

播磨東地区だより

播磨東地区長 古谷昭文

播磨東小学校長会は、東播磨地区七十四校（明石市、加古川市、高砂市、加古郡）北播磨地区六十校（西脇市、三木市、小野市、加西市、加東市、多可郡）計十支部一三四校で構成されております。五月二十一日には、総会・研修会を三木市で開催しました。会に先立ち、播磨東教育事務所の村松好子所長より「第三期ひょうご教育創造プラン」についてご講話を頂き、「兵庫が育む心豊かで自立する人づくりの具現化に向けて校長が為すべきことを示唆していただきました。総会では、活動方針に「生きる喜びと夢を持ち、人間性豊かな社会を築く たくましい子どもの育成」を掲げ、校長のリーダーシップのもと、創造プランの実現に向けて邁進することを確認しました。

播磨東地区は、臨海部の東播磨と内陸部の北播磨に行政単位が分かれたり一つになったり、都市部あり農村部あり、十支部それぞれに教育環境が違います。播磨東地区幹事。役員会では、情報交換を密にし、情報機器の設置状況から学校再編など各地区の抱える課題について話し合ってきました。また、外国語の授業時数の確保、プログラミング教育・働き方改革などについても意見交換をし参考としました。今後、播磨東全教職員が生き生きと働く学校作りができるように更に連携を進めます。

（三木市立広野小学校長）

地区の動き

但馬地区だより

但馬地区長　石井一彦

但馬地区小学校長会は、豊岡市、養父市、朝来市、香美町、新温泉町の五支部で構成されています。

令和元年度は、「兵庫は一つ」、「但馬は一つ」の理念の元、第七十回兵庫県小学校長会研究大会但馬大会に取り組みました。六十三名の会員が一人一役を担い、おもてなしの心で大会を開催しました。但小長全員が心を一つにして取り組んだ大会には、大きな価値がありました。

講師の東井義雄記念館館長の東井浴子氏の講演「温故知新～東井義雄の言葉に学ぶ～」では、いのちの教育を中心に不易の部分を学びました。午後からの八つの分科会では、激変の時代に対応して、実践を重ねる校長先生方のレポートから、流行の部分を学び合いました。主体的、対話的で深い学びを校長先生方自らが実践した、活気ある討議になりました。

また、但小長では兵小長のあり方検討委員会の趣旨を踏まえ、但馬小学校教育研究会の見直しを行っています。教職員の負担を少なくし、効果的で持続可能な活動になるよう、各研究部会の理事で検討を続けています。

来年度から新学習指導要領が完全実施されます。但小長は不易と流行のバランスを大事にしながら、新時代に対応した研究を重ねていきます。

（香美町立村岡小学校長）

淡路地区だより

淡路地区長　酒井義夫

淡路地区小学校長会は、洲本市、南あわじ市、淡路市の四十校で組織し、淡路地区校長会の活動は小・中学校合同の全淡小中学校長会として五十六校で実施しています。

本年度の大きな活動として十月二十三日に洲本市で「第七十回兵小長研究大会淡路大会」を開催しました。参加いただいた校長先生方のお陰で無事に終えることができました。参加者並びに関係者の方々に感謝いたします。

例年の活動として、五月二十一日に活動方針並びに事業計画を決定する総会を淡路市で開催しました。総会終了後の研修会では、淡路教育事務所より本年度の主要施策についての説明を受け、校長会としての取組の確認をしました。

十一月二十五日には、研究大会を洲本市で開催し、三市から選出された小中学校長が経営実践発表を行いました。また、一月二十四日には、「淡路地区学校経営に関する調査」のまとめと考察を淡路地区経営委員長が発表し、その後の分散会において学校経営の諸課題について協議を行う予定にしています。

三市の置かれた状況は異なりますが、「淡路は一つ」を合い言葉に淡路地区小学校長会として連携を深め、地域の子どもたちのために今後も鋭意努力を続けていきたいと思います。

（南あわじ市立神代小学校長）

西播磨地区だより

西播磨地区長　川上良之

西播磨地区小学校校長会は、今年度六支部（揖保郡太子町とたつの市の揖龍地区、相生市、赤穂市、赤穂郡上郡町、佐用郡佐用町、宍粟市）計六十校で構成されています。

当地区の課題の一つである規模適正化の動きは、各支部で継続して進行しており、来年度には統廃合による二校減の五十八校となりますが、「西播磨は一つ。教育の風は西から吹く！」を合言葉に、連携と交流を深めながら、課題克服に取り組んでいます。

六月十四日には、総会・研修会を国民宿舎志んぐ荘で開催しました。来賓として播磨西教育事務所長様・宍粟市教育長様をお招きし、本年度の活動方針や事業計画等について協議し、取組の方向性を確認しました。そして、魅力ある学校づくり、心が通い合う学校経営に努めていくことについても共通理解を図りました。研修会では、ジー・アイ・ディKAZOKUの会代表の前田良氏の講演をもとに、LGBTなどの今日的な人権課題について学びを共有し、理解を深めることができました。また、その後の交流会では西播磨全体の懇親と情報交換の場を持つことができました。

新学習指導要領実施に向けての諸準備や働き方改革の推進など、取り組むべき課題は山積していますが、今後も六支部が互いに連携して活動を推進していきます。

（宍粟市立山崎西小学校長）

編集後記

調査広報副委員長　西谷佳代

「令和」となり、時代がさらに加速度的に変化し続ける中、学校現場は、新学習指導要領の完全実施、働き方改革、教職員の資質・能力の向上等、様々な課題が複雑に絡み合い困難な状況に直面しています。このような状況を少しでも改善し、現場に笑顔とゆとりを生み出すため、兵小長では、毎年、対県要望書を作成し交渉を続けてきました。今号では、各地区からの意見集約、内容の慎重協議を経て作成した要望書とその交渉の過程について紹介しています。要望書は、「兵庫は一つ」の礎であり、粘り強く交渉を続けることは、兵小長がワンチームとして組織力を高めることに繋がります。

また、兵小長研究大会但馬大会・淡路大会を、経営委員の皆様をはじめ、全会員の皆様のご協力のもと、成功裏に終えることができました。但馬大会は、東井浴子氏から、東井先生の言葉に込められた教育の不易の真理について学ぶ機会となり、淡路大会は、放送大学教授、中川一史氏から、新しく導入される「プログラミング教育」について多くの示唆を頂きました。教育の不易と流行という視点からどちらも意義深い研修となりました。

最後に、校務ご多用の中、玉稿を賜りました校長先生方に、心より感謝申し上げます。

（豊岡市立竹野小学校長）